



長谷寺横穴墓群の前庭部や羨道^{せんどう}の調査を進めていくと、新しい発見がありました。

発見!



- ・前庭部で新しい遺物を発見（筒状の土製品）
- ・玄室→羨道→前庭部の順に、排水のためか、床面に傾斜をつけていました。

甕の下あった遺物の位置

↑ 斜面

速報「その1」でも触れた須恵器甕

甕を支えていた石

↓ 玄室

甕の下からは、写真（点線）のような状態で、筒状の土製品が見つかりました。

甕の下でみつけた新しい遺物（筒状の土製品）

写真のような状況で見つかりました。甕がぐらつくことなく、安定した状態を保てるように置かれていました。

出土状況

断面は中が空洞になっており内側が被熱していました。空洞の一番下はふさがっており貫通はしていませんでした。

断面状況

①羨道をふさいでいた閉塞石はとても大きく、羨道の幅も写真のように広がっていました。



縦：約160cm

横：約70cm

②閉塞石で羨道をふさぎ、出入りを厳重にしていました。

④玄室→羨道→前庭部の順に、床面が低くなりました

③閉塞石を取ると、羨道の全体像が見えました



④の写真のように、玄室から前庭部にかけて低くなるように傾斜をつけて、床面を低くしていました。玄室内に水が溜まらないようにしたものと考えられます。

